



脳ドックを受ける事はなぜ重要か？

脳ドックは無症候性脳血管障害を検査する目的ではじめられました。この無症候性脳血管障害の中の1つに脳動脈瘤があります。

脳動脈瘤とは脳の動脈の分岐部にできたコブのことを言います。この脳動脈瘤は無症状のことが多いのですが、まれに脳神経を圧迫して脳神経麻痺症状を出すこともあります。しかし脳動脈瘤で最も問題となるのは、クモ膜下出血の原因となることです。

クモ膜下出血になると突然の頭痛や意識障害を引き起こし、約10%の方が発作直後に死亡し、総死亡数が25～50%にもなると言われています。

脳動脈瘤は成人全体の5%程度が保有されていると言われており、加齢と共にその頻度は上昇します。特に家族内にクモ膜下出血を起こされた方がいた場合、その保有率は約12%と高くなることが分かっています。

国内で行われた研究結果から、脳動脈瘤を保有する方が年間に破裂する確立は約1%と判明しています。特に大きさが7mmを越えるもの、脳の中心付近にできるもの、また形がいびつなものでは破裂率がさらに高くなることが分かっています。

脳動脈瘤治療には開頭術と血管内治療があります。破裂していない場合は治療目的が破裂予防となることより、当院では侵襲の少ない血管内治療を第一選択としながら、それぞれの患者さまに最も適している治療法を提供しています。

当院では高性能なMRI機器を2台配備し、より多くの患者さまに検査を提供できる体制を整えております。お気軽にご相談ください。



脳神経外科は24時間体制で脳卒中診療を行っております。お気軽にご相談下さい。

TEL : 06-6672-3121 (代)